

講義名	現代世界史			授業形態	
担当教員	白幡 俊輔	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 4時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

主に20世紀から現在にいたる、世界全体の歴史について講義する。授業の前半6回では、現代社会の基礎となる社会制度や政治思想、「民主主義」「資本主義」「グローバリズム」「共産主義」などがどのような歴史的経緯をへて生まれたのかについて、19世紀以前にさかのぼって講義する。授業後半9回では、前半6回の内容を適時ふりかえりながら、20世紀におきた二つの世界大戦と東西冷戦について講義する。こうした講義を通じて、現代社会の成り立ちや、基本的な構造について理解する。

到達目標

- 20世紀以降の世界史の流れを理解する。
- 現代社会を構成する主要な経済・政治システムの成立過程を理解する。
- 現代史の知識にもとづき、未来の社会や世界の在り方について、構想していく力を身に着ける。

提出課題

毎回「質問・感想票」を配布するので、必ず記入して提出すること。また同用紙を用いて簡単な課題（クイズ形式）を課すこともあるので、授業時間中に記入して提出すること。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

「質問・感想票」に記された疑問や質問などについては、時間の許す限り、次の授業で全て回答する。

評価の基準

平常点と、期末試験の得点で総合的に判定する。点数配分は平常点：15%（主に質問票への記入や出席状況）、定期試験：85%とする。（無断欠席については減点の対象となるので注意すること）

履修にあたっての注意・助言他

世界史や政治経済について、予備知識なしでも構わない。基本的な歴史の流れや用語については、授業中に説明するので安心して受講して欲しい。歴史に関心がある人ももちろん、現代の経済や政治、現在世界で起こっている紛争や対立などについて関心のある学生の受講を歓迎する。（もし高校時代の世界史や政治経済の教科書を持っているなら、用意しておくことよ！）

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

授業ごとにプリントを配布する。また参考になるような図書については、授業中に教えるので興味があれば読んでみて欲しい。

授業計画

- ガイダンス 「現代社会を理解するために何を学ぶか」
- 民主主義の誕生 …啓蒙主義とフランス革命
- 民主主義の誕生 …ナポレオン戦争と「革命の輸出」
- 砂糖と産業革命 …グローバル経済の成立
- 砂糖と産業革命 …資本主義の課題と共産主義の誕生
- 第5回までのまとめ
- 二つの世界大戦 …「だれも望まなかった戦争」第一次世界大戦
- 二つの世界大戦 …ヒトラーの登場と第二次大戦への道
- 二つの世界大戦 …電報戦・太平洋戦争
- 二つの世界大戦 …赤いコースト、嵐嵐、終戦
- 冷戦 …東西世界の分断、ベルリンの壁
- 冷戦 …冷戦から「熱戦」へ、朝鮮戦争・キューバ危機
- 冷戦 …終戦後から再び冷戦へ
- 冷戦 …冷戦の終結とソビエト連邦の崩壊
- まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習
 1. 前回の講義で指定された用語について辞書やネットなどで調べておく。同様に、指定された参考文献があれば、読んでおくか、その内容について図書館、ネットなどで調べておく。（60～90分）

復習
 配布されたプリントの見直し、記入漏れが無いかチェックする。その際、質問・疑問があれば次回授業で教員に尋ねられるようメモ等準備しておく（60分）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本授業は「現代に至る世界史の学習」「現代社会を構成する諸制度についての学習」を通じて、全学共通のディプロマ・ポリシーのうちとくに「情報収集能力、情報分析能力、課題発見力、構想力の習得・向上を目指す」。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

学生からの質問等に関しては常時受け付けているので、授業前、授業中、授業後のいつでも積極的に尋ねて欲しい。ICTの活用については特に予定していない。

実務経験の有無及び活用

備考